

GSJ 地質ニュース

GSJ CHISHITSU NEWS

— 地球をよく知り、地球と共生する —

2016

4

Vol. 5 No.4



4月号

97-112

ベトナムのメガデルタに魅せられて 齋藤文紀

113-118

オレゴンから在外研究報告 東宮昭彦

119-123

日本学術会議公開講演会

「強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤の情報整備
—あなたの足元は大丈夫?—」の開催報告

日本学術会議地質地盤講演会準備会

124-126

石油開発の視点からの地圏研究への期待

星 一良

127-131

**地下微生物のメタン生成ポテンシャルを
評価する技術**

坂田 将

132-136

**マルチスケールにおける
ジオメカニクモデリング**

雷 興林

Cover Page



Kasumigaura (Nishiura) Lake and Sakuragawa lowland
in Ibaraki Prefecture taken from an airplane.

(Photograph and caption by Futoshi NANAYAMA)

航空機から撮影された霞ヶ浦（西浦）と桜川低地

茨城県南部にある霞ヶ浦は、日本第2位の面積を持つ湖である。約3年前の最終氷期の時代に、現在の桜川の河道を鬼怒川が流れていた。その鬼怒川が作った幅広い谷が、西浦の起源である。霞ヶ浦の名は、縄文海進によって生じた古鬼怒湾のエスチュアリーに由来し、その後、海跡湖（汽水環境）となった。1963年に治水と塩害防止を目的とした常陸川水門（逆水門）の建設によって湖水はほぼ淡水化した。逆に潮汐による湖水の循環および浄化機能が失われ、水質汚濁が進んだとも言われている。

(写真・文：七山 太 / 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門)